

example

【共通問題】

問1 次の文は、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成24年7月中央教育審議会初等中等教育分科会）の一部である。

文中の ～ に当てはまる適切な語句を下の語群から選び、記号で答えなさい。

基本的な方向性としては、障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場で ことを目指すべきである。その場合には、それぞれの子どもが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、 を身に付けていけるかどうか、これが最も本質的な視点であり、そのための が必要である。

《語群》

- | | | |
|--------|--------|-----------|
| a 環境整備 | b 共に学ぶ | c 学力 |
| d 生活する | e 生きる力 | f 多様な学びの場 |
| g 共に歩む | h 支援 | i 基本的生活習慣 |

example

問3 次の文は、特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示）第1章第2節「第6款 学校運営上の留意事項」の一部である。

文中の ～ に当てはまる適切な語句を下の語群から選び、記号で答えなさい。

高等学校等の要請により、障害のある生徒又は当該生徒の教育を担当する教師等に対して必要な助言又は援助を行ったり、地域の実態や家庭の要請等により保護者等に対して を行ったりするなど、各学校の教師の専門性や を生かした地域における特別支援教育のセンターとしての役割を果たすよう努めること。その際、学校として組織的に取り組むことができるよう校内体制を整備するとともに、他の や地域の高等学校等との連携を図ること。

《語群》

- | | | |
|---------|---------|----------|
| a 関係機関 | b 経験 | c 教育相談 |
| d 面談 | e 施設・設備 | f 教材・教具 |
| g 小・中学校 | h 支援 | i 特別支援学校 |

【選択問題】（聴覚障がい）

問14 次の文は、学校教育法施行令（改正：令和元年政令第128号）の一部である。
文中の 及び に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

第22条の3 法第75条の政令で定める視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者の障害の程度は、次の表に掲げるとおりとする。

区分	障害の程度
聴覚障害者	両耳の聴力レベルがおおむね <input type="text" value="A"/> デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の <input type="text" value="B"/> を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの

問15 次の文は、障害のある子供の教育支援の手引（令和3年文部科学省）に示された「補聴器と人工内耳」の一部である。

文中の ～ に当てはまる適切な語句を下の語群から選び、記号で答えなさい。

人工内耳は、現在世界で普及している人工臓器の一つで、難聴があつて補聴器での装用効果が不十分である際に手術の適応となり得る。一般的には、平均聴力レベル90dB以上の高度難聴で、少なくとも か月間補聴器を試みても聴覚活用ができない場合であるとされる。人工内耳では手術的に に電極（インプラント）を埋め込むプロセスと、外部装置（プロセッサ）を調整して装用するプロセスが必要となるため、手術前後には、医療機関、特別支援学校（聴覚障害）、療育機関（難聴児通園施設、リハビリ医療機関など）、両親や家族の支援が重要である。人工内耳を装用したとしても、手術後にすぐに、聞き取りが聴覚に障害のない状態と同等になるわけではない。また、その後の聞き取りにおいても個人差がある。一般的にはごく低年齢で手術を実施することが人工内耳を介した音声言語の獲得を行うために重要であると考えられているため、進行性・遅発性難聴の場合を除いて就学後に人工内耳の適応となることはまれである。一般的には人工内耳を装用した状態で dB から dB程度の装用域値が得られることが多い。

《語群》

a 60	b 20	c 外耳道
d 10	e 蝸牛	f 3
g 6	h 40	i 聴神経

example

【選択問題】(知的障がい、肢体不自由及び病弱)

問21 次の文は、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)(平成30年文部科学省)第4章第2節「1 知的障害のある児童生徒の学習上の特性等」の一部である。

文中の ～ に当てはまる適切な語句を下の語群から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号には、同じ語句が入るものとする。

知的障害のある児童生徒の学習上の特性としては、学習によって得た知識や技能が になりやすく、実際の の場面の中で生かすことが難しいことが挙げられる。そのため、実際の 場面に即しながら、繰り返して学習することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるようにする継続的、段階的な指導が重要となる。児童生徒が一度身に付けた知識や技能等は、着実に実行されることが多い。

また、 が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。そのため、学習の過程では、児童生徒が頑張っているところやできたところを細かく認めたり、称賛したりすることで、児童生徒の自信や主体的に取り組む意欲を育むことが重要となる。

更に、抽象的な内容の指導よりも、実際的な 場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導が効果的である。

《語群》

a 社会経験	b 進路先	c 生活
d 曖昧	e 断片的	f 体験活動
g 限定的	h 仕事	i 成功経験